

つなぐ，つながる，輪を広げる ～WLB実現に向けた（一社）土木技術者女性の会の取り組み～

一般社団法人土木技術者女性の会

まつもと かすみ
事務局長 松本 香澄

1. はじめに～土木界の女性におけるワークライフバランス～

土木界に働く女性技術者は、全体技術者の約4パーセント弱と言われている。他の業界に比べ、その比率の低さは顕著だ。一方、かねてより土木界、いや建設業界は3Kと呼ばれ、男女限らず勤務することを躊躇する業界として位置付けられていると聞く。本当に、このままでよいのだろうか？ 性別による差異以前に、土木界全体の魅力をもっと高めるために、女性土木技術者の私たちがもっと役に立てることはないか？ と考えたときに、いちばん身近な課題としてあげられるのが、ワークライフバランス（以下「WLB」と呼ぶ。）の問題である。

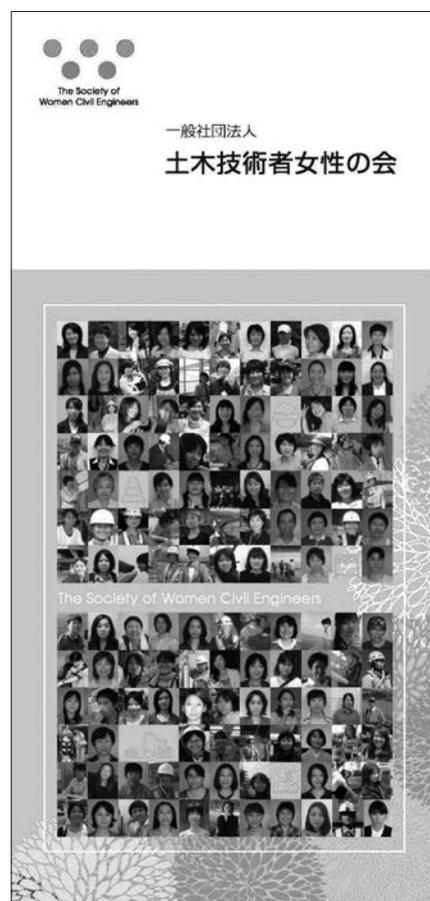
2. （一社）土木技術者女性の会の概要

(1) 発 足

「土木技術者女性の会（The Society of Women Engineers）」は、1983年1月に任意団体として発足し、本年（2016年）で会の設立33年を迎える。発足のきっかけとなったのは、土木学会誌（1982年9月号）の誌上で企画された「女性土木技術者の座談会」であった。座談会の席上で「日本各地

で孤軍奮闘している女性土木技術者が情報交換できるような会を」という意見があり、同誌で呼びかけたことにより集まった約30名でのスタートであった。

その後、会員数が200名を超えた頃、社会ニーズに応え、会として有益な活動を進めるために経



写真一 土木技術者女性の会パンフ表紙

営母体の確立、寄附等の活用を視野に入れ、2013年11月18日（土木の日）に「一般社団法人土木技術者女性の会」として、新たに歩み出したところである。

発足のきっかけは、土木学会誌の座談会であるが、女性土木技術者特有の問題をきめ細やかに取り上げ、対応していくために、発足当初から、どの組織にも依存しない独立した団体として活動を続けている。

(2) 会の目的と活動

① 目的

当会は、女性土木技術者の質の向上と働きやすい環境作りのために、会の発足当時から、一貫して以下の5つの目的をかかげている。この目的は、発足から30年以上経った2016年現在でも変わることなく、会の楔となっている。

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

② 会の主な活動

1) 会誌「輪」の発行

当会では、年に2回、会誌「輪」を発行している。仕事と結婚・出産・育児、資格取得・技術士受験体験、健康問題、介護等女性土木



写真—2 過去に発行した会誌「輪」

技術者にとって身近であり、幅広いテーマを取り上げている。タイトル「輪」は、文字通り、会員同士は手を取り合って輪となり、世の中に向かって影響力を広げていく様を表したものであり、作成当時の会員からの提案によると聞いている。

なお、会の活動をPRする目的も兼ねて、外部向けの版については、土木学会を含めた関連諸団体に寄贈し、活用していただいている。

2) 総会の開催

一般社団法人としての社員総会に当たる総会ではあるが、当会では任意団体の時代から、年に1回の頻度で総会を旨としてきた。全国に居住する会員が一堂に会する貴重な機会であり、会の運営や今後の在り方等について、議論を交わしている。

併せて見学会や勉強会等も開催し、女性土



写真—3 現場見学会



写真—4 現場見学会の様子

木技術者の知識の向上を図っている。これらは、必ず土木学会等のCPD対象イベントの位置づけとし、女性土木技術者のインセンティブにもなるよう工夫している。

3) 支部ごとの活動

当会の目的を踏まえ、会員が積極的な活動を図れるように、全国を北海道、東日本、中部、西日本の4つの支部に分け、支部ごとに活動を進めている。各支部ならではの企画による勉強会、見学会、懇親会等があり、この集まりにより、知り合いが増え、様々な視野が広がるのが楽しくて参加している若い会員も多いと聞いている。

3. WLBを念頭に置いた当会の活動

当会は、前述の5つの目的をメインとして活動を進めているが、その延長上には、土木技術者として、世の中に対し、土木に対するより良い理解を求め、後の世代の育成を進める責務を担っていると考えている。その際に、WLBを念頭に置いた活動ポイントは以下の通りである。

(1) 土木技術者が活躍できる就業環境の整備

① 物による対応（物理的対策）

以前に比べ、女性土木技術者の数は増加しているのだが、なかなか解決しないのが、物の配置である。以下、当会で話題となった物についてご紹介する。

1) 女性用トイレの設置

性別を語るうえで欠かせないのが、トイレの問題である。休憩所などは空間の確保で済むことから、優先順位は若干低くなるが、トイレについてはそうはいかない。例えば、その現場に従事する女性職員が一人でもいれば、女性用トイレは必要になる。できれば目立たない場所に設置してほしい、トイレはきれいに維持したい、工事現場にふさわしい色合いにしたいが、やたらなピンクは勘弁して



写真一五 女性用トイレと女性土木技術者の作業服姿

ほしい…様々なわがまま(?)に対し、相談に乗ってもらえるトイレ業者も登場し、これから女性用トイレは進化が期待される部門である。

2) 日焼け止めグッズ

現場作業に欠かせない日焼け止めは、通常の職場でも不可欠だが、土木界の女性土木技術者にとって重要なのは、現場の照り返しによる日焼けと、ヘルメットと作業服の間の首の部分の日焼けである。ここを気にするのは女性特有のものではないかと思う。



写真一六 顔の日焼け止め用のマスク

3) 作業服

細かいグッズに限らず、現場作業に不可欠な作業服については、男女かわからず、その使いやすさが問われるところである。ポケットの多さ、位置、サイズ、取り出しやすさ等。もし、さらに付け加えるとしたら、サイズの多様性であろうか。「女性用サイズがない」と赴任してから長い期間待たされた経験をした女性の先輩は数多いが、小柄な男性も同じ思いをしていないだろうか？

このようなところから、土木技術者の仕事へのインセンティブは生まれるように思う。

② 心による対応（意識改革）

1) 女性土木技術者本人

女性土木技術者が土木界で活躍するためには、本人の努力が第一である。ただ、本人だけでは解決できない問題がWLBの面では特にありがちである。新入職員が新しい環境で戸惑うように、異動したら、昇進したら、結婚したら、妊娠したら、出産したら、復帰したら、子育てしながら勤めることになったら、子供が熱を出したら、子供が小学校に入ったら、管理職になったら…「たら・れば」は枚挙にいとまがない。私たち土木技術者女性の会が誇れるのは、あらゆる世代の会員がいることから、何らかのロールモデルが提示できる、という自信である。このメリットをぜひ全国の女性土木技術者に伝えていきたい



写真一 7 臨月の女性現場監督

と思っている。

また、女性土木技術者にも経営層に参画する世代が登場し、「ガラスの天井*」も他人事ではない状況となってきた。土木技術に長けるだけではなく、経営者として、組織のマネージャーとして、能力を十分に発揮することができるか。多様な世代に広がってきた女性土木技術者一人一人の努力にかかっている状況をどのようにとらえていくか、が今後の課題である。

*女性の昇進を妨げる見えない障壁と言われている。

2) 女性土木技術者の周囲

女性土木技術者が活躍する環境を形成するには、本人の意識や組織の意向をつなぐことのできる同僚や身近な上司の存在が大きいと考える。同じ組織のルールの中で、個人の希望を生かしていくにはどのような知恵が技術者本人に必要なか、あるいは、組織のルールを浸透させていくためには、職員の意向をまとめて組織の風紀を作り出す、という役目を果たす立場の人たちがどうしても欠かせない。当会の会誌「輪」のような場で様々な知恵を得たり、会社の同僚（先輩・後輩）の間で情報交換を行うことで、個人としての女性土木技術者がその能力を十分に発揮する支えになってもらえるようお願いしたい。

3) 女性土木技術者が属する組織

活躍する女性土木技術者を生み出すのは、組織が構築する就業環境の影響がいちばん大きいと考えている。そして、組織のトップが、いかに女性土木技術者を業務上活用していくのか、WLBを含めた具体的な方針を明確にすることが、社風を作るうえで重要である。例えば、残業を限定的にすること、在宅勤務を導入すること、男女とも育児休業の取得を推進すること等があげられる。それらが明確な組織は、採用の段階でも新入職員との関係も良好になることが予想され、最終的には組織の利益につながるものと考えている。

(2) 他団体との連携

① 土木学会及び土木学会ダイバーシティ委員会との連携

土木学会でも、女性土木技術者の果たすべき役割に関心を寄せており、昨年の土木学会の全国大会のシンポジウムでは、当会会員が女性土木技術者を代表して、パネリストを務め、今後の女性土木技術者の育成の重要性という課題を指摘した。

また、2013年には、土木学会人材育成委員会ダイバーシティ推進小委員会（現ダイバーシティ委員会）に協力し、「継続は力なり～女性土木技術者のためのキャリアガイド～」（土木学会発刊）を策定した。様々な立場の女性土木技術者が、仕事、結婚、出産、育児などのテーマについて取り上げ、執筆している。現在、土木の仕事に従事している女性だけでなく、土木界を目指す学生に対してはロールモデルを、男女問わず技術者にとっては多様な働き方を知る機会を得ることができる有用な一冊である。



写真—8 「継続は力なり」表紙

② 世界工学会議への参画

当会では、昨年12月に京都で開催された第5回世界工学会議のWomen in Engineering (Track 9-1, 9-2) 及びセッションOS9-2の「OS9-2-2 社会基盤整備における女性技術者の育成」の

企画と運営に携わり、当会の会員が、セッションオーガナイザー、パネリスト、ショートコメントの発表者等重要な役目を果たした。

また、若手技術者や学生の参加を促すことを目的として、篤志者による寄付を原資とする参加費補助を実施することができた。若手研究者の育成の一助になったと考えている。

③ 男女共同参画学協会連絡会との連携

国立女性教育会館で毎年行われている「女子中高生夏の学校」というイベントに、例年ポスター展示・キャリア相談という形で参加している。その場では、未来の土木界を背負う可能性のある女子中高生及びその保護者に対し、「魅力ある土木」の啓蒙活動を行っている。元気いっぱいの中高生の直接の反応が得られることから、当会にとっても活動しがいのあるイベントとなっている。



写真—9 女子中高生夏の学校の様子

4. WLBの実現に向けた 当会の今後の取り組み

当会の歴史が積み重なった結果、会員の年齢層や担当業務の多様化が進み、様々な課題が浮かび上がってきている。当会として、WLBの実現を目指す、今後さらに力を入れていきたいと考えているのは、以下の3点である。

(1) さらなる情報発信と情報共有の深度化

全国には、まだまだ、孤軍奮闘している女性土

木技術者がたくさんいる。当会の支部活動の一貫として、様々な地域で講演会や勉強会を行うたび、仲間は増え、活動の幅は広がっていく。孤軍奮闘している女性土木技術者の悩みの芯はWLBの実現である。まずは、当会の存在を知ってもらい、WLBに係る課題を共に解決していくためにも、積極的に有益な情報発信を進め、さらに、情報の共有化を図ることを体系的に進めていきたい。

現在、ウェブサイトや会誌「輪」、メールニュースの内容充実にも努めている。

(2) 当会独自の企画による成果の見える取り組み

現在は、当会としての財政基盤や体制が確たるものではなく、他団体のイベントや催し物の共催や後援の立場が多い。今後は、当会が自立した法人として独り立ちし、自ら販路を拡大し、求められるところには積極的に出向き、会の存在をアピールし、女性土木技術者の課題を共有し、解決に向けて進めていきたいと考えている。当会はこれらのミッションのもとに、今年度、新しく企画広報局を構え、組織を増強している。

今後、当会主催の、当会ならではの企画・イベント等を積極的に打ち出していきたい。

(3) 法人化のメリットを生かした活動の拡大

法人化により得られたメリットは、組織としての信用と、寄付の受け入れの実現である。任意団

体では不可能だったこのメリットを生かし、財政基盤を整え、法人としての有用性を踏まえた具体的な活動を積極的に進めていきたいと考えている。

その一貫として、寄付金をベースにした冊子作成を予定している。当会では、女性土木技術者のロールモデル集として「Civil Engineerへの扉」という冊子を過去2回作成してきた（1996年、2008年）。時代のニーズ、読者の多様性を踏まえ、この「CEへの扉」第3版を近く作成の予定である。この資金を寄付金により賄う形で、各方面に協力を仰いできた。概ね予定額を達成できたことから、本格的に作成に入る段階となった。新しい冊子の配布をもって、ご協力いただいた方々のご恩に報いたい。ひいては、女性土木技術者の地位向上につなげたいと考えている。

5. おわりに

当会で、将来の会の理想形を描くときに、必ず議論になるのは、「女性」「男性」という区別が不要となる土木界の姿である。土木技術者同士がつながる、お互いの良さを生かした輪を広げる。「土木界に当然女性ありき」そのような時代が到来したときには、男女関係なくWLBの課題は解決していることだろう。その日が早く来ることを願ってやまない。



写真—10 当会のウェブサイト



写真—11 「Civil Engineerへの扉」(2008年版)